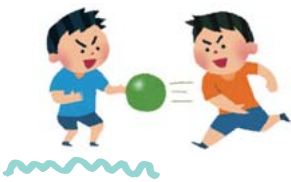


インタビュー

子どもたちの命を守りたい

お母さん革命ネットワーク 代表

花野 桃



はなの・もも

1971年、神奈川県生まれ、埼玉県所沢市在住。福島第一原発事故の直後、2児の母親として放射線被曝から子どもを守るため、メーリングリストや講演会の開催などで同じ思いを持つ人たちとの情報交換を始める。母親たちの活動を取材する「お母さん革命ネットワーク」を立ち上げ、2013年10月に扶桑社新書から『母親たちの脱被曝革命～家族を守る22の方法～』を出版。「花野桃」のペンネームは、娘さんの名前「花のママ」から。

立ち上がったお母さんたち

編集部 福島第一原発事故の放射能汚染から子どもたちを守ろうと、全国でお母さんたちが活動しています。花野さんが、そうしたお母さんたちと連携することになったきっかけは何だったのでしょうか？

花野 原発事故から1か月が過ぎた4月の終わりころ、2歳の長女と生まれたばかりの長男を連れて散歩していました。小学校の横を通りかかると、校庭で裸足の子どもたちが、もうもうと砂煙を上げながら運動会の練習をしていました。その時に、「この校庭の砂は何ペクレルあるんだろう？」と思ったんです。「この子たちが大きくなった時、どうなっているの？」と。

地域の学校や保育園をどうしたら安全な環境にできるのかと考え、ママ友といっしょに所沢市の保育園の「全園クリーン作戦」を提案しました。園庭の放射性物質を測定し、危険箇所マップを作り、許されるならそこを掃除しよう。でも、行政からストップがかかってしまったんです。

そんな時、ママ友からのメールで、放射能から子どもを守るための講演会が

市民放射線測定室

福島第一原発事故の放射性物質による汚染に対して、行政に任せるだけでなく、自分たちの手で安全を確かめる市民放射線測定室が、被災地の東北や首都圏をはじめ、全国に広がっています。

「とこらぼ(所沢・市民放射線測定室)」

埼玉県所沢市

子どもや若者、妊婦の健康と命を守ることを目的に、2012年12月に開設されました。市民ボランティアが運営に携わり、近隣の住民から持ち込まれた土や食品、水などの放射線量をベラルーシ製の測定器(AT1320A)を使って検出しています。

こうして集めたデータで市内の土壤汚染測定マップを制作するほか、学習会や測定済み野菜の産直販売「とこらぼ市場」も開催し、子どもが受ける放射線リスクを低減することに貢献。お母さんたちの集いの場にもなっています。



とこらぼ

測定料金(1検体) 会員500円・一般1,000円 ※会員は年会費3,000円
<http://children-foundation-t.jimdo.com/>

あることを知りました。講演会の後のお茶会で、「母の会をつくるしかない!」と盛り上がり、その場でお母さんたちとメールアドレスを交換し、地域の子どもを守るための団体を立ち上げました。政治的な主張ではなく、今子育てをしている全国のお母さんたちが同じ思いでつながっていったんです。

編集部 所沢市に提案された全園クリン作戦は、その後どうなりましたか?

花野 講演会で出会ったお母さんの一人が「ほかの市では請願を出しているよ」と動き始めました。そこで地域のお母さんたちが協力し、土壤の放射性物質の測定と低減努力、給食の測定と低減努力という2つの内容で請願を出しました。私も赤ちゃんを抱いて、議員さんのところに通いました。同じ講演会に父親として参加されていたテレビ局の方に会えたことも大きかったですね。公園で測定していると

ころを取材し、朝のニュース番組で取り上げてもらいました。議員さんも「テレビ観たわよ」とか、「私にも孫がいてね」と受け入れてくれるようになって、請願は2つとも全会一致で採択されたんです。

その後にあつた市長選でも、1人でもできることはないか考えて、候補者にインタビューを申し込みました。子育て政策をお聞きして、その結果をブログで発表したんです。メールなどで100人ぐらいのお母さんにそれを伝えたら、あつという間に数千件のアクセスがありました。市民団体や記者クラブにも伝えたので、最終的には数万人がインタビューを読んだと思われまます。

放射性物質への対策に理解がなかった方が、わずかな差で市長に当選しました。それでも、すぐに保育園や学校の放射性物質の測定と除染が始まりました。その方の考えを聞いて周りに伝えることで、多くの人の声が反応として返ってくる。そうすれば、候補者がどの政党の誰であろうと、政策は変わり得るんだと思います。



対立ではなく対話がしたい
編集部 それで、花野さんの「お母さん革命」だった。全国でほぼ同時に動き始めたお母さんたちの特徴は何でしょうか?

花野 お母さんたちが望むのは、あくまでも子どもたちの命を守ることで。そのために、まずは学校や保育園に行つて先生たちと協力関係をつくります。でも、先生は行政から、これをしてはいけないと言われることも。そうなら行政に行く。行政は市長の許可がいる。では行政の長を動かすにはどうすればいいか。そこで今度は議会に行くわけです。議事を動かすためには司法、そしてマスコミやメール・ブログ・選挙などを活用する。

壁にぶつかった時、それを動かそうとすると、こんなふうに民主主義の仕組みを動かすことになるわけです。お母さんたちと、「これって学校で習った民主主義の三権分立の基本だよな」「そうそう、司法・立法・行政の三角の図ね」って話しています。教科書に載っていた図をイメージとして共有しながら、お母さんたちが民主主義のツールを使って問題を解決することを学んできたんです。

ただ、革命といっても、お母さんたちは誰かを打ち倒したり、対立することを望んではいません。対話がしたいんです。学校の先生や行政の職員、政治家、お医者さん、いろいろな人たちと連携しながら、いっしょに子どもを育てたい。そういう意味で、自分の子どもを育てるには、社会も育てなければいけないということにお母さんが気付いたのが、一番の革命だろうと思います。

お母さんたちからのラブレター

編集部 花野さんが出版された『母親たちの脱被曝革命』家族を守る22の方法』には、お母さん革命の様々な活動が紹介されています。

花野 もともと本のタイトルは「お母さん革命」にするつもりでした。子どもを育てるには、被曝問題だけではなく、育児、教育、介護、環境、食の問題な



どを解決するためにお母さんたちがもっと社会に参加する必要があると思います。多様な人たちと連携したいと思い、本を出版したんです。

原発の事故後からがんばってきたお母さんたちも、そろそろエネルギーが切れてきているように思います。お母さんだけではもう、子どもたちを守ることはできません。だから、この本はラブレターのつもりで出版しました。

「私たちは子どもとその友達、彼らが将来出会うであろう友達や配偶者を守るために一生懸命活動しています。みなさんもいっしょに子どもたちを守り、育てていきませんか」という、お母さんたちからのラブレターなんです。

琉球大学の矢ヶ崎克馬先生に、子どもを守るための対策はいつまで続けられるのか質問したところ、今回の汚染は100年単位になるそうです。そんなに長く続く活動を構築するには、子育て中のお母さんだけでは無理があります。「限界です。助けて!」というメッセージでもあります。

編集部 いっしょに子どもを育てていくためには、父親も祖父母も、そして行政職員も政治家も、われわれすべてが「お母さん」だということでしょうか。

花野 社会の未来を育む母ですね。学校の先生や行政の職員だけでなく、傷ついているお母さんも多いですから、お医者さんや臨床心理士などの医療関係者にもぜひ連携していただきたいんです。これからの対策は、医療が核になってくると思います。お母さんたちが動いた直接のきっかけは、子どもの健康状態が悪化していることを肌で感じたからなのです。

保養には医療などとの連携が必要

編集部 特に健康面に関しては、お母さんだけでは子どもを守れないという不安は大きいはずですよ。

花野 25年後の日本はどうなっている

※保養(転地保養)

放射能汚染のない土地で一定期間生活し、外で思いっきり遊び、安心な食材を食べて、心身をリフレッシュさせること。
低線量被曝で傷ついた細胞の修復、体内に蓄積された放射性物質の排出に効果があるといわれています。

のでしょうか。チェルノブイリ原発事故で放射能により汚染されたウクライナのコロステン市の状況は参考になると思います。NHKの番組で紹介された政府報告書によると、クラスの児童40人のうち、健康な子は2人しかいない。体力がもたないという理由から学力テストは廃止されて、授業時間も小学校で10分間、中学校で5分間短縮…。ウクライナの汚染地域では事故から25年後に、そういうことが起こっているのです。

こうした事態を防ぐ努力を、今私たちははしなくしていくのでしょうか？ 少なくともウクライナやベラルーシでは努力しています。汚染地域では、医療費が無料。甲状腺検査も無料で受けられます。子どもたちを年に約30日間保養させることも無料でやっています。ところが日本には、そういう公的なサポートはありません。それどころか、ほとんどの人が「日本はウクライナのようにはならないよ」と根拠もなく言うんです。でも、その根拠がなければお母さんたちは安心できません。



保養の効果については、これからもっと伝えていかなければと思っ
ます。被曝した子どもたちが汚染の
ない地域で過ごす、赤ちゃんなら8
10日で体内に蓄積されたセシウムの量
が半減するそうです。保育園児や小
校低学年なら2〜3週間、高学年なら
40日間ぐらいで半減すると。大人なら、
90〜110日と言われています。私の
友人も、減少した血液中の好中球の数
値が保養の後で回復したそうです。

編集部 保養の効果について、日本では
十分に認知されているとはいえませ
ん。

花野 土壌の放射線量は、全国にたく
さんできた市民測定室などでデータが
蓄積されていますが、医療のデータは
市民の力だけでは集められません。で
すから、医療福祉生協のようなしっ
かりとした母体のあるみなさんに、ぜ
ひご協力いただきたいと思っています。血液
検査や尿検査などで保養の効果が数値
としてはっきりと出れば、日本全体で
とりくむことができます。

例えば、青少年の家のような宿泊が
できる社会教育施設を利用して、被災
地域に認定されていない場所も含め、
汚染地域の子どもたちを保養に招いて

ほしい。ただ、市民団体だけで招待す
るのは、安全管理の面で心配がありま
す。学校の先生や社会教育主事をされ
ていた方はそのあたりのノウハウをお
持ちですから、連携していただければ
心強いです。さらに、病院との連携が
あれば、市民団体も保養に引きやす
くなります。安全な食材を提供してく
る農家さんなど地元の方たちにも、子
どもたちの保養をサポートしてもら
いたいと思っています。

編集部 医療福祉生協でも福島の子
どもを招いています。

花野 保養がもっと理解されて、なお
かつそのサポートが継続的に受けられ
る仕組みができたらいいですね。お母
さんがやりたいのは、子どもの命を守
ること。それだけです。それには保養
が一番かなと思います。

怖がらずに声を出して

編集部 子どもへの放射線の影響を不
安に感じていても、まだ一人で思い悩
んでいるお母さんは多いと思います。
最後に、そんなお母さんたちへのメ
ッセージをいただけますか。

花野 まずは、子ども全国ネットや東京
連合なども守る会などのサイトを検索
してください。そこで自分が住む地域
にどんな団体があるかを調べて、連絡を
取ってみる。家族や友達にはわかって
もらえないことでも、理解してくれる人
が実はたくさんいて、インターネット上
で身近な情報を共有し合えます。

例えば、「保養 山梨 長野」と検索す
れば、支援団体の名前が出てきます。
私もメールを送ったら、「どうぞおい

事故直後は不安ばかりでした。子ども
たちは本当に大丈夫？ そう思っている
のは私だけなのか。そんな時、同じ地
域に住んで、同じ思いを抱いている人
と出会ったことに救われました。放射
性物質による汚染の情報には、常に
気を配って生活しています。何かあ
ったらすぐに動けるように…。子
どもの将来に不安を感じているお
母さんたちに、これからも情報を
伝え続けたいと思っています。

お母さんの声



渡辺千種さん

小学校6年生、1年生、3歳の3
児を育てるお母さん。行政への働
きかけや、とこらばの測定アン
スタントなどの活動を続けています。

花野桃さんの サイン入り 著書をプレゼント!

『母親たちの脱被曝革命
～家族を守る22の方法～』

扶桑社新書

3名様

本誌綴じ込みハガキにて
ご応募ください。



てください」とあなたにかい返事がき
ました。全国に助け合いのネットワー
クができていますから、怖がらずに声
を出して、気持ちを伝えてみてください。

編集部 子どもたちを守るため、お母
さんたちは自分に何ができるのかと考
え、人とつながり、苦労しながら活動
されています。その思いと力に、私
たちは未来を感じます。今後、様々
な立場で子どもと社会の未来を育む「お母
さん」が増えることに期待します。あ
りがとうございました。